# ● 授業科目の 内容紹介

教 養 教 育 科 目

П

科目

科目

授業科目名	単位		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
ライフデザイン総合セミナー	(2)		日英 保音	1	全教員

#### I 主題

建学の精神に謳われている理想の人間像を目指して、教養を高めて文化を尊ぶ人間教育の実践を目的とする(学生生活ハンドブック「建学の精神」の項参照)。本学に学ぶ全ての学生にとって、将来のライフデザインを構築するための基礎的な必修科目である。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.社会性を養うために必要な社会的技能・教養を伸ばし、広げることが出来る。
- 2.自己表現により、自分の考えを的確に判断し、コミュニケーション力を高めることが出来る。
- 3.社会人として求められるマナーや知識を身につけ、必要な場面でそれを発揮することができる。

#### Ⅲ 授業の概要

高校までに身に付けた基礎学力を補完しつつ、大学生としてそれらを積極的に活用することを通して、人間力と呼ぶに足る、将来のライフデザインの土台となる能力の獲得へと結びつけていく。 具体的には、二年間にわたる隔週の授業と二回の宿泊研修とで構成される。

#### Ⅳ 授業計画と内容

項目 内容

(1年次)

1. フレッシュマンキャンプ 4月7日(火)~4月9日(木)2泊3日

2. 基礎力活用講座 相互理解(4~5月)

ノートをとろう(5~6月) 伝えるための要約(6月) 責任を持った主張(7~10月) グループワークショップ(10~11月)

3. 研修センターゼミ 3月に実施 1泊2日

(2年次)

4. 社会人準備講座 進路を考えよう (4月)

外部講師による実践的講習(10~12月)

#### ▼ 使用テキスト・教材等

適宜プリント等を配布する。

### Ⅵ 参考書・参考資料

授業時に指示する。

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100		20		80	
フレッシュマンキャンプ		0		0	
基礎力活用講座		0		0	
研修センターゼミ		0		0	
社会人準備交差		0		0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

その都度、指示する。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

※合否判定は、上記「Ⅶ 成績評価の方法及び基準」に示した1~4 の項目のそれぞれにおいて行い、全てに合格することにより、単位を認定することとする。

Τ

授業科目名	単 位 必修	選択	学科	年次	担当教員
哲学と人生		2	日英	2	松井重樹

#### I 主題

哲学を学び、自分の問題をよりよく考えていくことである。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.哲学の動機、性格などを学び、哲学の基本的なことが理解できる。
- 2.主な哲学者の考え方を学び、自ら考える時の参考とすることができる。
- 3.レポート作成を通して、自分の問題のよりよい解決を見い出していきたい。

#### Ⅲ 授業の概要

色々な哲学者の考え方を紹介し、各人が考える時の参考になるようにしたい。

### Ⅳ 授業計画と内容

項月内容1哲学の言葉の意味古代ギリシャ語で、「知を愛する」2哲学の動機驚き、疑い、批判、危機意識、悲哀など。項目3~7で詳しくとりあげる。

 3
 驚き
 ソクラテス、プラトンの哲学

 4
 疑い
 デカルトの哲学

 5
 批判
 カントの哲学

6 危機意識 ハイデガー、ヤスパースの哲学

7 悲哀 西田幾多郎の哲学

8 哲学の性格 主体性、全体性、根源性、論理性など

9 日常生活での問題と哲学 日常、私たちが生活する中で出くわす問題と哲学的に

考えることについて

10 身体

- 11 営為・仕事
- 12 天災・人災
- 13 欲
- 14 人間関係
- 15 生と死

※10~15 の項目は、時に受講生とコミュニケーションをとりながら、ある程度自由に考えていきたいと思う。 その時に、色々な哲学者の考え方をわかりやすく紹介したい。

### ▼ 使用テキスト・教材等

必要に応じてプリントを配布する。

#### Ⅵ 参考書·参考資料

イラストでわかるやさしい哲学 酒井、宇都宮 成美堂出版

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100%		70		30	
哲学の基本的なことの理解		0		0	
主な哲学者の考え方の理解		0		0	
レポートの内容		0		0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

配布されたプリントを事前によく読んでおくこと。授業時に示す課題についてレポートを作成すること。

TV

授 業 科 目 名	単 位 必修	選択	学科	年次	担当教員
文学と人間		2	日英 保音	1	平井修成

#### I 主題

文学はなぜ、人間を癒やすことが出来るのか。

この根源的でありながら曖昧なまま放置されてきた問いに、理論的な解答を与えると共に、その具体的なメカニズムを示す。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.人間が人間という存在であることに起因する苦しみについて理解することが出来る。
- 2.上記の苦しみから脱する為の一般的な手順を理解することが出来る。
- 3.苦しみから脱する為の手順を、文学的営為を通じて実行する方法を理解することが出来る。

#### Ⅲ 授業の概要

人間存在についての哲学的考察と、文学が人間にもたらす影響についての考察を組み合わせ、「主題」に 記した目的の達成を目指す。

項目立てされた各々の知識を教授するのではなく、数学のように、全体が論理的に組み合わされた授業である。

### Ⅳ 授業計画と内容

項目/内容

- 1. 概説/授業の主題と、そこに至る方法論
- 2. 「自己」とは何か①/自己の領域が可変的であること
- 3. 「自己」とは何か②/自己の領域が可変的であること
- 4. 「自己」とは何か③/「自己」を自覚することの苦しみ
- 5. 自我の本質的苦痛とその救済①/希望の実現/絶望すること
- 6. 自我の本質的苦痛とその救済②/眩暈すること/「私」の対象化
- 7. 「私」を対象化する文学①/近代小説の自我意識確立の主題
- 8. 「私」を対象化する文学②/自我意識の確立と快楽
- 9. 眩暈をもたらす言葉①/古今集的修辞の共通項
- 10. 眩暈をもたらす言葉②/古代詩歌の世界
- 11. 眩暈をもたらす言葉③/詩歌の場で、人は何を体験するか
- 12. 感情移入のメカニズム①/現実感はどうして得られるか
- 13. 感情移入のメカニズム②/自己は「自己」に共感する
- 14. 感情移入のメカニズム③/幸福な主人公に感情移入する
- 15. まとめ/時代を通底する文学的必要

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

新編 文学的体験とはどのようなものか 平井修成

おうふう

#### Ⅵ 参考書・参考資料

プリント資料を配付する

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100%	70	20		10	
人間存在についての哲学的理解	0	0			
苦しみを脱する方法についての理解	0	0			
文学的体験が人間に及ぼす効果につ	0	0			
いての理解					
理解し自ら考察しようとする				0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

考えることを楽しみ、新しい知識を得ることを喜ぶ態度で、日々を暮らして下さい。

Τ

 $\mathbf{III}$ 

行動と心理		2	日英 保音	1	大村壮
授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

この授業では心理学の理論や現象を通して、その考え方について学ぶ。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.心理学とはどのような学問なのかを知る。
- 2.人間を巡る理論や現象について理解を深める。
- 3.各論について理解を深め、受講前とは違う考え方ができるようになる。

### Ⅲ 授業の概要

心理学の理論を通してモノの見方について学ぶ。理論とは、私たちが何か出来事や現象を見るときのメガネのようなモノである。違うメガネをかければ見える世界が一変するように、いろんな理論を学ぶことで世界に対する見方も変わる。そこでこの授業では複数の観点からその事例を見ることを学ぶ。

#### Ⅳ 授業計画と内容

項目

1. ガイダンスと心理学のイメージ

2. 生理:脳と心と

3. 知覚:アフォーダンス

4. 認知①:記憶

5. 認知②:記憶

6. 認知③:意思決定

7. 社会①:ステレオタイプ

8. 社会②:社会的認知

9. 社会③:社会的ジレンマ

10. 発達①:幼児期~児童期

11. 発達②:青年期~成人期

12. 発達③:老年期

13. 教育①: 学習する

14. 教育②:動機づけと評価

15. 教育③:問題行動

#### 内 容

心理学は何の学問なのか

心はどこにあるのか、自由意志は存在するのか

知覚の仕方は一様ではない

知覚したモノがどう記憶されるのか

日常世界の記憶

人はどのように買い物をしているのか

認知を歪めるバイアス

人はどう判断しているのか

「情けは人のためならず」の意味

自我はどのように発達するのか

アイデンティティの形成 歳をとることの意味

学習するとは

子首するとは 人はなぜ勉強するのか

不登校、いじめ、逸脱行動を指導する

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。

## VI 参考書·参考資料

適宜、授業中に指示する。

### WI 成績評価の方法及び基準

	成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他()
学習項目			レポート	品		
配点比率(%) 合計 100%	Ó	80	20			
心理学の知識の習得		0	0			
人間行動に対する新たれ	な考えの習得	0	0			
心理学理論や現象の理	解	0	0			

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

人間について常に疑問を持つように日ごろから行動してほしい。授業内容を授業を受講していない人に話してほしい。

## 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

他者に配慮した行動をとることを求めます。そのため私語、他の受講生への迷惑行為は厳禁です。憶えるだけでなく、考えるように取り組んでほしいです。

科

IV

VI

授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員
行動と心理		2	日英 保音	1	金子泰之

#### I 主題

教育現場の問題や子どもに関する社会的問題への理解を深めるために、心理学的な視点や問題のとらえ方を習得する

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.心のしくみの基礎を理解し、それを他者に分かりやすく説明できるようになる
- 2.心理学の見方や考え方を用いて、社会的な問題を考えられるようになる
- 3.

### Ⅲ 授業の概要

心理学とはどのような学問なのかを, 実習やグループワークを通して体験しながら学ぶ様々な社会問題を心理学的に考え, 理解を深める

### Ⅳ 授業計画と内容

/ ]又:	木川凹し竹竹	
	項目	内 容
1.	心理学とは	心理学を概観する
2.	知覚(1)	錯視に関する実習
3.	知覚(2)	知覚のメカニズム
4.	記憶(1)	記憶の構造(実習)
4.	記憶(2)	記憶の構造(解説)
6.	記憶(3)	自己と記憶
7.	認知(1)	因果関係の認知
8.	認知(2)	偏見と他者認知
9.	学習	学習による変容
10.	パーソナリティ	性格検査から個人差をとらえる
11.	発達(1)	ヒトはどのように発達するのか
12.	発達(2)	発達障害の子どもとその特徴
13.	教育(1)	学校集団の中で起きるいじめ
14.	教育(2)	青少年の非行
15.	教育(3)	非行少年の処遇

### ▼ 使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。必要に応じて授業中に資料を配布する。

#### Ⅵ 参考書・参考資料

必要に応じて授業中に参考書を案内する。

### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100%	80	10		10	
心理学の基礎知識の習得	0	0		0	
心理学的に社会問題を考える	0	0		0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

犯罪・非行, いじめ, 不登校, 虐待など, 社会で問題となっていることに普段から意識的に目を向けてください。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

私語など他の受講生の迷惑となる行為は厳禁とします。授業への参加態度に問題がある場合や注意しても改善されない場合は、退室させ欠席扱いとします。定期的に小テストを実施しながら、厳しく評価します。

Τ

TV

芸術と人間		2	日英 音	2	前田昌利
授業科目名	必修	選択	学科	年次	担当教員
le alle el e	単位	立数	N4 4:1		I- 11. W -

#### I 主題

建築、美術、音楽という芸術が、我々人類史の文化発展にどのように寄与し、また人間の生存そのものに不可 欠であったかという重要性を学びとる。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.我々の日常生活の中で、音楽が如何にして必要なのかを認識できるようになる。
- 2. 西洋音楽の歴史を学び、文化人としての人間力をつけることが出来る。
- 3.幅広い曲を聴くことで、豊かな感受性を身につけることが出来る。

#### Ⅲ 授業の概要

パワーポイントやDVDなどを駆使し、視覚と聴覚で芸術の幅広い見識を養う。

#### Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	芸術と人間(序)	人間と芸術の関わりを歴史の上から学ぶ
2.	西洋音楽の生い立ち	西洋クラッシック音楽の生い立ちからバロック
3.	古典派の音楽家たち	ハイドン、モーツアルト
4.	ロマン派の音楽家たち①	ベートーベン
5.	ロマン派の音楽家たち②	シューベルト、メンデルスゾーン
6.	ロマン派の音楽家たち③	シューマン、ブラームス
7.	ロマン派の音楽家たち④	ショパン
8.	ロマン派の音楽家たち⑤	チャイコフスキー
9.	印象派の芸術	印象派の美術絵画と音楽家たちの関わりを学ぶ
10.	指揮者について	指揮者の仕事やその哲学などを学ぶ
11.	オーケストラ	オーケストラの仕組みや使われる楽器について学ぶ
12.	オペラ①	オペラの歴史や魅力について学ぶ
13.	オペラ②	オペラの DVD を鑑賞し、その魅力を学ぶ
14.	バレエ①	バレエの歴史や魅力について学ぶ
15.	バレエ②	バレエの映像を鑑賞し、その魅力を学ぶ

### ▼ 使用テキスト・教材等

その都度テキストや、CD、DVD を使用する。

### Ⅵ 参考書・参考資料

CD·DVD で語る西洋音楽史 岡田曉生著 新書館

### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

 - 174 174 III - 17 1 IIII - 17 1 III - 17 1					
成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100		60		40	
芸術に対する認識・理解度		0		0	
芸術及び音楽全般へ関わる姿勢		0			

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

前回の授業内容を復習し、その都度整理しておくこと。

### Ⅳ その他 (履修上の注意、前提条件等)

原則として1/3の欠席は履修を拒否する。

科科目

IV

科目

授業科目名 	必修	選択	学科 <b>日英</b>	年次	担 当 教 員 
本門 C 入间			音		無次杯天

#### I 主題

この授業では、人類が作り出した芸術の世界を堪能し、人間性への理解を深める。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.音楽の歴史を学び、理解し、豊かな感性を養う。
- 2.知識を得ることにより、それ以上の創造性、客観性、発展性を得る。
- 3.毎回、季節のうたを紹介、実践してみる

### Ⅲ 授業の概要

さまざまな時代・形式の音楽を紹介する。

#### Ⅳ 授業計画と内容

1/4/		
	項目	内 容
1.	総合芸術 I バレエ	白鳥の湖の魅力を探る
2.	総合芸術Ⅱミュージカル	オペラ座の怪人の魅力
3.	総合芸術Ⅲオペラ	フィガロの結婚から楽劇までの歴史
4.	オーケストラの音楽	宮廷音楽から歌劇場の音楽
5.	音楽の始まり~中世・ルネサンス時代	グレゴリオ聖歌
6.	バロック時代から	ビバルディ、バッハ、ヘンデル
7.	ィーン古典派の音楽	ハイドン、モーツアルト、ベートーヴェン
8.	アノの楽器と名曲について	チェンバロとピアノフォルテ
9.	マン派の音楽 I	シューベルト、メンデルスゾーン
10.	マン派の音楽 Ⅱ	ショパン、シューマン、リスト
11.	題音楽と絶対音楽	ワーグナー、ブラームス
12.	代・現代の音楽	グリンカ、スメタナ、ドボルザーク
13.	舞伎•能•雅楽•人形浄瑠璃	無形文化遺産の役割
14.	本音楽と楽器	伝統的な楽器の特徴
15.	界で活躍する日本の音楽家	武満徹、團伊玖磨について

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

名探偵コナン推理ファイル『音楽の謎』 青山剛昌 小学館

#### Ⅵ 参考書・参考資料

その都度発表する。

もう一度学びたいクラシック 西松理監修 西東社

### Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他()
学習項目		レポート	品		
配点比率(%) 合計 100	50	50			
芸術に対する認識・理解度		0		0	
芸術及び音楽全般へ関わる姿勢		0		0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

前回の授業内容を復習し、CD,DVD にて確認しておく。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

原則として1/3以上の欠席は不合格とする。 遅刻は認めない。 授業中、静粛を保てない場合、退室願う。

Τ

歴史と人間	火州多	選択 <b>2</b>	日英保音	1	高木敬雄
授業科目名	単位必修	立数	学科	年次	担当教員

#### I 主題

この授業では、主に静岡の近現代史に関わる人物や出来事を取り上げ、その内容と歴史的意味を考察する。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.静岡の歴史や人物を学ぶことで地域に興味・関心を持つことができる。
- 2.歴史上著名な人物だけでなく、地域で活躍する人々を掘り起こし調べることができる。
- 3.信念に基づき力強く生き抜いた人々から、現代に通じる思想や生き方を学ぶことができる。

#### Ⅲ 授業の概要

文字資料や映像などを活用し、それぞれの項目について多面的に学び、かつ理解できるようにする。

#### Ⅳ 授業計画と内容

項 ペリー、龍馬、新選組、八重の時代 幕末とはどんな時代か? 大河ドラマの描き方など 1. 2. 幕末維新の民衆 名もない民衆たちの幕末維新とは 3. 静岡時代の慶喜 最後の将軍慶喜の静岡時代 牧之原とお茶 士族と川越人足たちの開墾 4. 5. 福沢諭吉と文明開化 「学問のすすめ」にみる諭吉の思想 自由民権の群像 自由を求めた人々の運動と思想 6. 7. 静岡の発明家たち 発明王と呼ばれた鈴木藤三郎ほか 足尾鉱毒事件、現代に通じる正造の思想 8. 田中正造の生き方と思想 日清日露戦争と静岡 主戦論、反戦論と東アジア 9. 焼津と小泉八雲 八雲と焼津の関わり、彼の作品紹介 10 11. 大正デモクラシーと民衆 普選と婦人運動…松本君平、与謝野晶子 静岡茶の発達 清水開港、機械化、やぶきた、茶唄 12 戦争と民衆 アジア・太平洋戦争とは何だったのか 13. ビキニ事件の経緯と原水爆禁止運動の高揚 14. 第五福竜丸事件 15. 高度成長から現代へ 静岡茶の盛衰から現在を読み解く

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

自作プリント、パワーポイント使用、DVD 視聴

#### Ⅵ 参考書・参考資料

各授業時に示す。

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	믑		( )
配点比率(%) 合計 100%	55	15	15	15	
歴史の歩みを理解する	0	0		0	
資料収集と人物の掘り起こし			0	0	
現代の課題を考える	0	0			

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

授業中に指示する課題についてレポートを作成する。

### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

履修上の注意:授業に関係ない私語はしないこと。

TV

V

	社会と人間		2	日英 保音	2	田中美幸
授	美 業 科 目 名	単 fi 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

この授業では、現代社会の諸問題を多角的観点から理解し、社会生活を営む上において、問題解決のための基本的考え方や自己コントロールの方法について学ぶ。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.各テーマを光と影という観点から理解し、物事を客観的にとらえることができるようになる。
- 2.現代社会の諸問題について多角的観点を学び、自分の経験をもとに問題解決までのプロセスを理解できるようになる。
- 3.さらに、「一歩踏み出す勇気」と「ポジティブ思考」の知識を利用して、自己実現を目指して応用できるようになる。

#### Ⅲ 授業の概要

この授業は、社会生活を営む上で大切な問題解決力を養うことを目的とする。その基礎知識として、社会が何を求めて発展してきたか、人間はどのように進化してきたか、現代社会のテーマを光と影という観点でとらえ、自分が存在する意味を考察する。グループ学習、体験学習、個人発表を通して、過去の成功体験から問題解決のプロセスを理解し、自分の未来を発展的に考察する。

### Ⅳ 授業計画と内容

項目内容

1. はじめに 人間とロボットはどこが違うか。

2. 人類の誕生について 地球誕生から生命の誕生~人類誕生に至るまで

3. 人間の進化について 進化し続けてきた人間は今後も進化するだろうか。

4. 社会とは 社会はどのように発展してきたかを理解する。

5.6. 新聞から現状を学ぶ 現代の社会事情を学ぶ。文明とは何か。 7~10. 社会問題と家族問題 「Pay it forward.」「おくりびと」から学ぶ。

11.12. 文明と文化について 先人から何を学び、次世代に何を伝えるか。 伝統文化・家族文化:みそ造り体験を手掛かりに

13.14. 個人発表 教科書のテーマについて、自分の考えを発表する。

15. まとめ 問題解決力についてまとめ、自分の未来を発展的に考察する。

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

朝のホームルーム 武仲保夫著 発売元:静岡新聞社

### Ⅵ 参考書・参考資料

適宜配布

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100	50	20	10	20	
様々な身近なテーマを深く理解	0			0	
現代社会が抱える諸問題を理解	0			0	
物事の光と影、過去と現在を考え、文明	0	0		0	
と文化について理解					
多角的な考え方を理解	0		0	0	
問題解決の基本的な考え方を習得	0			0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

教科書を事前に読んでおくこと。授業中に示す課題についてレポートを作成すること。 新聞記事やテレビのニュースに注目し、現代社会について理解すること。 日常のポジティブなできごとに気づき、発表に備えること。

### 以 その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業に関係ない私語は慎むこと。授業態度を重視する。

П

Τ

授 業 科 目 名	単位 必修	上 数 選択	学科	年次	担当教員
職業と人生		2	日英保音	1	池谷昌樹

### I 主題

各種の職業についての理解を深め、仕事やライフ・プランについて考えることを主題とする。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.各種業界人の話を聞くことによって、仕事のやりがいや生き方を知り、自分なりの言葉で表現できる。
- 2.視点を持って聞き・考えることを通して、自分なりの職業観を持ち、話したり書くことができる。
- 3.まとめのワークを通して、ライフ・キャリアについて話し合い、思いを書き表すことができる。

#### Ⅲ 授業の概要

担当教員による事前およびまとめの講義・作業、外部講師による講義

### Ⅳ 授業計画と内容

- 項 目(※印は、外部講師による)
  - 1. オリエンテーション
  - 2. 情報の収集とまとめ方※
  - 3. 作文・取材の仕方(1)
  - 4. 小売業と販売業※
  - 5. 作文・取材の仕方(2)
  - 6. 金融業界※
  - 7. 作文・取材の仕方(3)
  - 8. サービス業界
  - 9. 作文・取材の仕方(4)※
  - 10. 公務員、地方行政※
  - 11. 作文・取材の仕方(5)
  - 12. 製造業界※
  - 13. 作文・取材の仕方(6)
  - 14. ホテル業界※
  - 15. 進路選択に向けて

#### 内 容

概要説明、仕事と生活と人生について マスコミ、出版の仕事を通して

\*\*\*・ のよりよりに乗る処理のは羽

考えのまとめ方と質問の練習・準備

講義および第3回を踏まえた質疑応答

第4回のまとめと第6回の質問準備

講義および第5回を踏まえた質疑応答

第6回のまとめと第8回の質問準備

講義および第7回を踏まえた質疑応答 第8回のまとめと第10回の質問準備

講義および第9回を踏まえた質疑応答

第 10 回のまとめと第 12 回の質問準備

講義および第 11 回を踏まえた質疑応答

第 12 回のまとめと第 14 回の質問準備

講義および第 13 回を踏まえた質疑応答 全体のまとめとライフキャリアについて

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

随時プリント資料等を用意する。

#### VI 参考書·参考資料

なし。

### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100		60	30	10	
仕事について自分の言葉で表現できる。		0	0	0	
自分なりの職業観を、書くことができる。		0	0	0	
キャリアについて話し合い思いを表現できる。		0	0	0	
キャリアについて思いを書くことができる。		0	0	0	
			·		

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

業界や企業について下調べをし、聞き取るポイントを明確にしておく。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業にはスーツ着用で出席すること。企業研究会への参加は必須(早退は認めない)。自分のライフデザイン、 ライフ・プランを考え、進路への関心と意識を常に持つこと。

科科目

科目

授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員
くらしと教育		2	日英 保音	2	小長井邦男

#### I 主題

この授業では、子ども及び教育を取り巻く問題・課題の現状と対策を学び、これからの社会で生き抜く人間的な資質を身につける。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.全ての教育が一人一人の社会的自立を支援するために行われていることを理解できる。
- 2.学校だけが教育機関ではなく、多くの教育関係機関との連携が大切だと理解できる。
- 3.子どもの健全な育成には、大人社会の見直し・建て直しが必要なことが理解でき、それらに対して自分の考えがもてる。

#### Ⅲ 授業の概要

配付する資料や映像資料で、教育的問題・課題を把握し、自分なりの考えを整理する。

#### Ⅳ 授業計画と内容

この授業は、これからの社会で生き抜く人間的な資質を高める教養科目である。

1,	VIO. C. 1010 D. 1 L. Y. C. T. C. W. () (	.11 2.	SARCINIO STATE I I CON SO
	項目	内	容
1.	くらしの中の教育		教養力と専門力 自立へのイメージ
2.	自立するということ		建学の精神と自立 自立を阻害する問題
3.	障害をもつ子どもへの教育①		特別支援教育の概要
4.	障害をもつ子どもへの教育②		発達障害への対応
5.	児童虐待への対応①		虐待としつけ
6.	児童虐待への対応②		児童虐待防止法
7.	児童虐待への対応③		身体的虐待とネグレクトの実態
8.	児童虐待への対応④		先進国(スウェーデン)の取り組み
9.	いじめ問題への対応		いじめの定義 いじめの実態
10.	不登校問題への対応		不登校の定義 不登校の実態
11.	思春期と性に関する課題		思春期の特徴 性に関する問題行動
12.	不満の爆発「家出」「暴力行為」		家出の現状 暴力行為の現状

### ▼ 使用テキスト・教材等

家庭での生活指導

あらためて教育問題を考える①

あらためて教育問題を考える②

講義中に資料配付

13.

14.

15.

### VI 参考書·参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書、生徒指導提要など

## Ⅵ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小 成果発表・作		授業態度	その他
学習項目		レポート	믑		( )
配点比率(%) 合計 100%	50	25		25	
教育の使命の理解	0	0		0	
子ども・教育の諸問題の理解	0	0		0	
諸問題に対する自分の考え	0	0		0	

家庭、父親、母親の役割

障害をもつ子どもの保護者

思春期の子どもへの対応

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

日常の教育問題に関心をもつために図書館や新聞を活用する。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

毎回配付する資料等を保存し、試験に備えること。

Ι

くらしとボランティア		2	日英 保音	1	鳥羽茂
授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員

#### I 主題

この授業では、ボランティア活動とは何かを理解し、学生自らが主体的に活動に参加しようとする態度を養うことに主眼におく。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.ボランティア活動とは何かを理解する。
- 2.大規模災害について学び、大規模災害時のボランティア活動について考察する。
- 3.NPOや、NPOの果たす役割等について学び、くらしとボランティアについて考察を深める。

#### Ⅲ 授業の概要

ボランティア・市民活動に関する資料・映像・文献等を用い、ボランティアへの理解を深める。

#### Ⅳ 授業計画と内容

J.~ .	*** H C 1 7 H	
	項 目	内 容
1.	はじめに	講義の進め方のオリエンテーション
2.	ボランティア活動とは何か	学生同士のディスカッション
3.	ボランティア活動論(1)	ある青年のボランティア活動
4.	ボランティア活動論(2)	ボランティア活動と人の生き方、暮らし方
5.	災害時のボランティア活動(1)	災害とは何か、東日本大震災から学ぶ
6.	災害時のボランティア活動(2)	災害時のボランティア活動を考える
7.	HUG 避難所運営ゲーム(1)	大規模災害と避難所生活を考える
8.	HUG 避難所運営ゲーム(2)	大規模災害と避難所生活を考える
9.	活動体験事前指導	活動体験に向けた事前指導と情報提供
10.	活動体験報告(1)	活動体験報告
11.	活動体験報告(2)	活動体験報告と振り返り
12.	NPO論(1)	NPOとは何か
13.	NPO論(2)	NPOの役割、活動の広がりを理解する
14.	社会参加を巡る諸問題	社会における人間関係について考える

### ▼ 使用テキスト・教材等

必要に応じ資料配布をする。

おわりに~まとめ~

#### VI 参考書·参考資料

市民活動論

15.

大阪ボランティア協会出版

「くらしとボランティア」を考える

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小 成果発表・作		授業態度	その他
学習項目		レポート			( )
配点比率(%) 合計 100		20	50	30	
ボランティア活動への理解		0		0	
介後等体験・自主的な体験			0		
くらしとボランティアの応用		0	0	0	

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

ボランティア・NPOに関する内容の新聞記事等を読もう。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

履修上の注意:夏期休暇中に「介護等体験」をはじめ「自主的な活動体験」を履修者全員が行う。活動後には「体験レポート」の提出(必須)。また毎回、講義やグループ発表を聞いた感想を小レポートで提出する。

VI

授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員
くらしと経済		2	日英 保音	2	山川正人

#### I 主題

社会人として必要な人生設計、家計管理、金融経済の基礎を実践的に学び、最終的には自身の人生設計の大枠を掴むことを目的とする。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.社会人として必要な、人生設計、家計管理、金融経済の概要を知る。
- 2.人生計画の裏づけとなるマネープランの立て方の基礎を身につける。
- 3.20 歳以降の、長期的な自分自身の人生計画を作成する。

#### Ⅲ 授業の概要

教科書的な内容ではなく、実際の社会生活の中で起こっていることを題材に、聴く一方ではなく、考えたり、簡単なワークを行いながら講義を進めます。一般論ではなく、自分に当てはめて考え、受講生各自が卒業後の人生の指針を手にすることを目指します。

### Ⅳ 授業計画と内容

/	授耒計画と内容	
	項 目	内 容
1	. くらしとお金	DVD 学習、ライフデザイン=人生設計について。
2	. 人生 80 年計画①	人生80年の計画表を作成。
3	. お金を稼ぐ	働く意味、働き方、生涯収入と支出等。
4	. お金を使う	さまざまな費用、社会保障、税金。
5	. お金を借りる	契約、クレジットカード、キャッシング。
6	. マネートラブル	悪質商法、マネートラブルの現実。
7	. ライフプランゲーム	人生を仮想体験するライフプランゲーム
8	. お金を貯める・増やす	金利計算の方法。さまざまな金融商品。
9	. 人生 80 年計画②	20 代の人生計画。
1	0. マイホーム取得	物件選び、住宅ローン、返済。
1	1. 生命保険	20 代に生命保険は必要か?
1	2. 自動車保険	自動車保険、事故処理の実際。
1	3. マネーマネジメント	ライフイベント表、キャッシュフロー表、財産簿
1	4. 人生80年計画③	30 代以降の人生計画。
1	5. 人生80年計画④	私の人生ストーリーの作成。

#### ▼ 使用テキスト・教材等

ライフプラン情報ブック 生命保険文化センター 生命保険文化センター

### Ⅵ 参考書・参考資料

なし

#### Ⅵ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100		80		20	
各回ごとの出席レポートの理解度合い、 質問等の積極的態度等		0		0	
課題レポートの具体性、学んだ知識の反映具合等		0			

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

常に新聞やテレビ等の経済ニュースに関心を持ち、日常生活との関わりを意識するように心がけること。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

毎回簡単なレポートの提出を求め、これをもって出席確認とします。欠席が 5 日を超えた場合原則として単位を出しません。講義中私語が目に余る場合は退席させる場合があります。この場合は欠席扱いとします。

Τ

TV

V

くらしと日本の憲法		2	日英 音	1	望月茂
授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

日本国憲法と暮らしがどのようにつながっているかを理解し、人権尊重の意識がもてる。

### 授業の到達目標

1.日本国憲法の基礎的な概念と役割がわかる。

国民主権と象徴天皇制

日本国憲法の成立過程

基本的人権の成立

自由権(思想・信教)

自由権(経済的自由)

法の下の平等

自由権(表現)

社会権·参政権

- 2.憲法と暮らしが、どのように具体的に関わっているかを考えることができる。
- 3.憲法に関心を持ち、暮しの中で人権意識が持てるようにする。

#### Ⅲ 授業の概要

2.

3.

4.

5.

6. 7.

8.

9.

10.

11.

12.

13.

14.

15

テキストやレジュメ等を使用し、事例をもとに考え、必要に応じて書く時間をとって意識などの確認を行う。

### 授業計画と内容

項目 ガイダンス 1.

平和主義

内 容

日本国憲法と私たちの暮らし 国民の主権と天皇制の関わり

大日本帝国憲法から日本国憲法の成立

平和主義と戦争の放棄

基本的な人権と具体的な関わり

自由と平等の関係

思想良心の自由、信教の自由

表現の自由、黙秘権等

職業選択の自由、財産権等 教育を受ける自由、選挙について

国会の役割、間接民主制等

内閣や総理大臣について

裁判所の役割

地方における民主主義、住民投票等

今までの授業内容の振り返り

筆記試験を実施する。

#### まとめ 定期試験 使用テキスト・教材等

国会

内閣

裁判所

地方自治

小学館 日本国憲法

小学館

#### VI 参考書·参考資料

必要に応じて、プリントや 資料を配布する。

グラフィック「憲法入門」 毛利透

新世社

### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	小テスト・小 成果発表・作		その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100	50	25		25	
基礎的知識の理解	0	0			
論理的思考の習得	0			0	
時事的興味·関心		0		0	
文章表現力	0	0			

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

予習・・・事前にテキストや課題などを読んで考えておく。

復習・・・講義での内容を復習する。採用試験問題なども紐解く。

### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

試験の評価(知識・理解)同様に、日頃の授業の出席度合いや態度・意欲を重視する。 特に、授業時の「聞く・書く・話す」ことを心掛けてほしい。

П

授業科目名	単 fi 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員
くらしと日本の憲法		2	保	1	大坪弘典

#### I 主題

わたしたちのくらしと日本国憲法とのかかわりについて理解し、人権尊重の意識を養う。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.日本国憲法の基礎を理解し、法の基本的役割がわかる。
- 2.自分たちのくらしと憲法がどのようにかかわっているか、理論的に考えることができる。
- 3.自分たちのくらしと憲法のかかわりについて、関心をもつことができる。

### Ⅲ 授業の概要

レジュメや資料を使用して、憲法の条文について、事例をもとに考察し理解する。必要に応じて書く時間を取り、 理解や意識の確認を行う。最後に試験を行う。

### Ⅳ 授業計画と内容

項目

内 容

1. オリエンテーション

立憲主義と現代国家、法の支配 明治憲法制定の背景と特色

明治憲法の特質
 日本国憲法の成立

日本国憲法成立の背景および憲法前文

1 本国憲法の成立
 4 国民主権

国民主権と選挙、象徴天皇制

5. 平和国家

平和主義の原理、戦争放棄と自衛権

6. 基本的人権の原理

人権の歴史、人権の一般原則、国民の義務

7. 包括的基本権

人権の体系、新しい人権

8. 人権と公共の福祉

基本的人権の限界、公共の福祉、自由と平等の関係

9. 精神的自由権

思想・良心、信教、学問、表現の自由

10. 経済的自由権

職業選択、営業、住居・移転の自由、財産権

11. 社会権と受益権

生存権、教育を受ける権利、、労働基本権、受益権

12. 権力分立

国会、内閣、裁判所

13. 地方自治 14. 教育基本別

教育基本法、児童憲章、子どもの権利条約

14. 教育基本法等15. まとめ

これまでの授業内容の総括と振り返り

地方における民主主義、住民投票

定期試験

筆記試験を実施する

# ▼ 使用テキスト・教材等

なし

### Ⅵ 参考書・参考資料

必要に応じて資料を配布する。

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100	60	20		20	
基礎的知識の理解	0	0			
論理的思考判断	0			0	
時事的興味関心		0		0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

予習・・・新聞やニュースを見ることを習慣化し、憲法と関連づけて実生活や社会事象をとらえ、興味・ 関心・疑問を持って授業に臨むこと。

復習・・・コ講義内容を復習し、採用試験問題等でも確認しておくこと。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

試験の評価以外に、日頃の授業の出席状況や態度、意欲も評価対象とする。 授業時においては、「聞く、話す、読む、書く」の学習態度、及び、その意欲のバランスに心がけて欲しい。

Ι

 $\mathbf{III}$ 

くらしと科学		2	日英 保音	1	湯佐泰久
授 業 科 目 名	単 位 必修	立数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

この授業では我々の「くらし」に役立つ科学的な知識・情報について学ぶ。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.我々のくらしに関する諸問題について理解ができるようになる。
- 2.我々のくらしに役立つ科学の知識を習得できるようになる。
- 3.さらに、科学的なものの見方・考え方を身につけ、日常の生活に応用できるようになる。

#### Ⅲ 授業の概要

「くらしに役立つ科学」に関する資料を収集し、その考察を元に理解を深める。

### Ⅳ 授業計画と内容

項	Ħ	内	容
1.		ガイダンス・科学とは	授業のねらい・計画の説明、科学とは何か
2.		科学的な見方	科学的な見方(確率・統計)、科学の特徴
3.		くらしの中の科学	衣食住の科学、サイエンス & メディア・リタラシイー
4.		くらしと地球の科学	地球の誕生と進化、日本の自然、自然災害
5.		くらしと自然現象①	地震発生の仕組み、地震予知、防災対策
6.		くらしと自然現象②	火山噴火の仕組み、噴火予知と防災マップ
7.		くらしと防災の科学	自然災害の特徴、防災の考え方、自助・協助
8.		くらしと生命の科学	生命の仕組と多様性、生命・人類の誕生と進化
9.		くらしと資 源	資源の種類と利用、限りある資源、資源の特徴
10.		くらしとエネルギー	エネルギーの種類、その長所と短所
11.		くらしと化学物質	人工化学物質とその特性、その問題と対策
12.		くらしと放射線	放射線・放射能、放射線障害とその防護
13.		くらしと水の科学	水の性質とその循環
14.		くらしと汚染問題	環境汚染(大気·水質·土壌汚染、放射能汚染)
15.		まとめ	まとめ・総復習
		定期試験筆記試験	

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。教材資料としてプリントを配布する。

#### Ⅵ 参考書・参考資料

参考書は使用しない。適時、参考資料としてプリントを配布する。

## Ⅵ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表·作	授業態度	その他
学習項目		レポート			( )
配点比率(%) 合計 100	20	40		40	
『くらしに関する諸問題』の理解	0	0		0	
『くらしに役立つ科学の知識』の習得	0	0		0	
『科学的なものの見方・考え方』の習得	0	0		0	

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

理解を深めるために、上記項目に関する書籍を事前に読んでおくことが望ましい。

### Ⅳ その他 (履修上の注意、前提条件等)

受講状況(出席回数・小テスト・授業態度)が良ければ単位はとれるので、授業に積極的に参加すること。

IV

授業科目名	単 位 必修	選択	学科	年次	担当教員
くらしとマナー		2	日英 保音	1	丸尾和子

#### I 主題

人と人がコミュニケーションをとる際の「マナー」の重要性について考え、卒業後に社会人として必要とされるマナーを習得する。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.人の気持ちを察する「気づきのセンス」の重要性について学習する
- 2.好印象を与えるマナーの5原則を体得し、コミュニケーション能力を伸ばす
- 3.国際人として身につけたい様々なシーンにおけるマナーを習得する

#### Ⅲ 授業の概要

日常生活のみならず国際人としてのマナーを知り、ロールプレイング等で実践し体得する。

### Ⅳ 授業計画と内容

12.7	MI EL C. L. L. E.	
	項目	内 容
1.	オリエンテーション	授業概要
2.	プレゼンテーション実習①	スピーチ
3.	コミュニケーション①	好印象を与える表情・姿勢・アイコンタクト・身だしなみ
4.	コミュニケーション②	好印象を与える美しい身のこなし
5.	コミュニケーション③	好印象を与える話し方・聞き方
6.	コミュニケーション④	DVD 視聴・気づきの重要性
7.	コミュニケーション⑤	正しい言葉遣い・敬語遣い
8.	コミュニケーション⑥	マナーの 5 原則
9.	コミュニケーション(7)	ロールプレイング
10.	コミュニケーション⑧	ユニバーサルデザイン
11.	コミュニケーション9	ソーシャルネットワーク社会のマナー
12.	国際人としてのマナー①	様々な国際的シーンにおけるマナー
13.	国際人としてのマナー②	様々な国際的なシーンにおけるマナー(テーブルマナー)
14.	プレゼンテーション実習②	スピーチ
15.	まとめ	

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

必要に応じて資料を配布する

#### VI 参考書·参考資料

日本人にしかできない『気遣い』の習慣	上田比呂志	クロスメディア・パブリッシング (インプレス)
あたりまえだけどなかなかできない敬語のルール	山岸弘子	明日香出版社

#### WI 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	믑		( )
配点比率(%) 合計 100%	20	20	20	40	
プレゼンテーション能力の習得		0	0	0	
マナーの5原則の習得	0	0	0	0	
気づきのセンスを磨く		0	0	0	

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

次回の授業範囲について周辺情報を収集し、自分の意見をまとめておくこと

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

私語を慎むこと、積極的に発言すること

Ι

授 業 科 目 名	単位 必修	と数 選択	学科	年次	担 当 教 員
環境とエコライフ		2	日英保音	1	湯佐泰久

#### I 主題

この授業では「環境」と「エコライフ」に関する諸問題について学ぶ。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.我々が直面している「環境問題」の実状を理解できるようになる。
- 2.我々の取るべき「エコライフ」を理解し、説明できるようになる。
- 3.さらに、「環境」と「エコライフ」の知識を利用して、日常の生活に応用できるようになる。

#### Ⅲ 授業の概要

「環境」と「エコライフ」に関する資料を説明し、その理解を深める。

### Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内 容
1.	ガイタンス・環境とは何か	授業のねらい・計画の説明、環境とは
2.	エコロジーとエコライフ	その基本思想、歴史的・地理的背景
3.	循環型社会の構築	大量生産・大量消費・大量廃棄の問題
4.	エコライフと水	水資源の特徴、水理と水質、おいしい水
5.	エコライフと環境問題	公害と環境問題、その考え方
6.	エコライフと災害、地震	地震の種類、東海地震、その予知と対策
7.	エコライフと災害、火山	火山活動、富士火山、その予知と対策
8.	エコライフと資源	地下資源の利用、資源の有限
9.	エコライフとエネルギー	化石燃料・核燃料・新エネルギーの特徴
10.	地球温暖化	温暖化の実状と対策
11.	環境問題 ①	農薬汚染・環境ホルモン、「沈黙の春」の思想
12.	環境問題 ②	水質・土壌・放射能汚染、特徴と対策
13.	環境問題 ③	家庭でできるエコ、ごみを減らそう
14.	環境問題 ④	エコクッキング、リサイクル、3R
15.	まとめ	まとめ・総復習
	定期試験	筆記試験

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。教材資料としてプリントを配布する。

#### Ⅵ 参考書・参考資料

参考書は使用しない。適時、参考資料としてプリントを配布する。

## Ⅵ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表·作	授業態度	その他	
学習項目		レポート			( )	
配点比率(%) 合計 100	20	40		40		
『環境問題』の理解	0	0		0		
『エコライフ』の理解	0	0		0		

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

理解を深めるために、上記項目に関する書籍を事前に読んでおくことが望ましい。

### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

受講状況(出席回数・小テスト・授業態度)が良ければ単位はとれるので、授業に積極的に参加すること。

科目

健康とスローライフ		2	日英保音	1	田中美幸	
授 業 科 目 名	必修	選択	学科	年次	担当教員	
	単位	立数				

#### I 主題

この授業では、私達が地球上で健康に暮らすための基礎的な知識(身体の働きや食について)と、自分の身体のリズムを理解してコントロールする方法を学ぶ。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.身体の働きについて理解し、自分の体調について考察できるようになる。
- 2.身体と心の関係を学び、自己コントロールの方法を考察できる。
- 3.心身の働きと現在の食環境の基礎知識を利用して、自分の体調管理や食生活に応用できるようになる。

### Ⅲ 授業の概要

この授業は、身体の働きと現在の食環境を学び、身体と心の自己コントロール法を理解し応用することを目的とする。その基本として、まず脈拍、体温、血圧を測定して自分の身体のリズムを理解する。毎時間、5分程度の体操をして体温上昇を実感する。またグループ学習で安心、安全な食生活の基礎知識を習得し、食体験を通して今後の生活習慣について考察する。

### Ⅳ 授業計画と内容

項目

1. 健康とは

2~5. 地球環境と人体の働き

6. 身体のリズム

7. 身体の動きと体温調節

8. 掌から健康を考える

9. 体調管理について

10. 食環境について市場調査する

11. 食の原点について

12~13. 伝統食と日本人の生活

14. 健康とスローライフとは

15. まとめ

内 容

身体と心の関係について学ぶ。

呼吸の重要性について学ぶ。

太陽・水・空気・食事・心と身体の関係を学ぶ。

体温・脈拍、血圧から身体のリズムを理解する。 自分の体温を意識し、調節する方法を学ぶ。

東洋医学の考え方を体験から学ぶ。

自分の体調を意識し理解する方法を学ぶ。

グループ学習により、身近な食環境について理解する。

身体の働きと食の関係を学ぶ。

体験を通して日本食の原点を学ぶ。

身体と心の自己コントロール法について学ぶ。

今後の生活習慣について考察する。

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

なし

#### Ⅵ 参考書・参考資料

適宜配布

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表·作	授業態度	その他
学習項目		レポート	뮵		( )
配点比率(%) 合計 100	60	10	10	20	
地球環境と身体の働きの関係を理解	0			0	
身体と心をコントロールする方法を理解	0	0	0	0	
身近な食環境について理解	0		0	0	
心身の働きと食生活について理解	0			0	
自分の体調管理や生活に応用する方法	0			0	
を習得					

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

市場調査のレポート作成等。

テキストの図解を見て、身体の構造に慣れておくこと。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業に関係ない私語は慎むこと。授業態度を重視する。

Ι

授 業 科 目 名	単位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員
おもてなしの外国語A		1	日英音	1	田貞美

#### I 主題

日本を訪れる韓国の人々に韓国語を身に付けることで、日本のすばらしいおもてなしの文化を伝えることを目的とする。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.ハングルの正しい発音で文字を読める。
- 2. 簡単な挨拶を身に付ける。
- 3.韓国の文化にふれあう。

#### Ⅲ 授業の概要

主目的は簡単な日常会話ができることを目指す。

#### Ⅳ 授業計画と内容

会話の土台を作る。

	云前の上口を下る。	
	項目	内 容
1	韓国のプロフィール	国旗や国土の説明
2	ハングルの説明	簡単な挨拶とハングルの構成
3	DVD視聴	今の韓国を見る。
4	ハングルの説明	基本母音と子音の説明
5	JJ	IJ
6	DVD視聴	世界遺産の仏国寺
7	ハングルの説明	ハングルの特徴
8	JJ	ハングルの単語と発音練習
9	JJ	ハングルで自己紹介
10	韓国料理	韓国の食文化のマナーを学ぶ
11	韓国の文化のこと説明	結婚や徴兵制度について
12	ハングルの説明	ハングルを読む
13	II .	ハングルを読む 文法の説明
14	II .	ハングルを読む 書く
15	JJ	試験に備えて予習
定期	試験	

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

おはよう韓国語 1 崔 柄珠 朝日出版社 2014

### VI 参考書·参考資料

特になし

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポ	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		ート	믑		( )
配点比率(%) 合計 100%	30	50		20	
ハングルの基本文字と単語の理解	0	0		0	
韓国語の簡単な会話		0		0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

次回の授業範囲を予習し、宿題を必ず提出する。

### Ⅳ その他 (履修上の注意、前提条件等)

私語を慎む。 授業に集中すること。

授業科目名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員
おもてなしの外国語B		(1)	日英 音	1	田貞美

#### I 主題

韓国語を学んで日本と韓国の文化交流を目指す。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.韓国語で簡単な日常会話ができることを目指す。
- 2.韓国の文化を体験し韓国を深く理解する。
- 3.韓国の日常生活を映像で学ぶ。

### Ⅲ 授業の概要

お互いの文化を深め合って、より良い関係を築くことを目指す。

### Ⅳ 授業計画と内容

	· · · · · · · · · · · ·	
	項目	内 容
1.	韓国の習わしに触れる。	日本のお盆と韓国のお盆の違い
2.	ハングルの説明	会話と文法
3.	II.	JJ
4.	ハングルの説明	会話と文法
5.	韓国のミニドラマ視聴	言葉が招く誤解を学ぶ
6.	ハングルの説明	会話と文法
7.	II.	JJ
8.	ハングルの説明	会話と文法
9.	"	JJ
10.	DVD視聴	観光地を見る(ソウル、プサン)
11.	韓国料理	韓国の食文化のマナーを学ぶ
12.	ハングルの説明	会話と文法
13.	II	JJ
14.	ハングルの説明	会話と文法
15.	II	試験に備えての予習
	定期試験	

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

おはよう韓国語 1 崔 柄珠 朝日出版社 2014

### Ⅵ 参考書・参考資料

無し

## Ⅵ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・レポ	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		ート	딞		
配点比率(%) 合計 100	30	50		20	
韓国文化の知識		0		0	
韓国語の文法	0	0			

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

次回の授業範囲を予習し、宿題を必ず提出する。

### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

私語は慎む。 授業に集中すること。

П

Τ

V

情報リテラシー		2	日英 保音	1	谷口真嗣
授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### 主題

情報化社会で生き抜くためには、情報の仕組みや流れなどを理解することが必須である

### Ⅱ 授業の到達目標

1.コンピュータの基本構成や機能などを理解する 2.インターネットを例に、セキュリティや法律などについて理解する

3.コンピュータやインターネットを的確に利用できる力を身につける

#### Ⅲ 授業の概要

情報化社会で必須な基本的なスキル(基本的な仕組みや特性、関連する法律など)を身につける

#### 授業計画と内容

Ħ

項 内 容 (1) インターネットの基礎知識 インターネットの歴史とサービス (2) セキュリティと法令 セキュリティと法律、意識の問題 など (3) 情報の伝達 インターネットを利用した情報の伝達について 権利の保護と自己管理 (4) 著作権、違法コピー など コンピュータの基本構成と機能 (5)(6)コンピュータの種類と特徴、構成要素、 CPU とメモリ、OS の種類、ファイルの種類など (7)(8)ソフトウェア ソフトウェアの種類と選定 (9)(10)システム管理と運用管理 ディスクとメモリ容量、ハードウェアの管理、 性能管理と障害対策、ファイル管理 (11)-(13)データベース データベースの機能と特徴、RDB、検索、 データベースとしてのインターネット (14) 新しいオフィス形態 移動体通信、モバイルコンピューティングなど (15) まとめ

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

定期試験 筆記試験

よくわかる情報リテラシー 岡本敏雄監修 技術評論社

#### Ⅵ 参考書・参考資料

ひと目でわかる最新 情 報モラル

日経 BP 社

### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小レポート	授業態度	
学習項目				
配点比率(%) 合計 100%	70	30		
テキスト内容の理解	0	0	0	
セキュリティの理解	0	0	0	
社会倫理と自己管理	0	0	0	
データベース など	0	0	0	

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

新聞や雑誌・TV など各種メディアでの先端技術に関する報道に興味を持つこと。 率先してコンピュータを使用すること。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業を欠席した場合、成績から-5 点を減点します。また著しく授業態度が悪い場合は退席を求め、欠席と同 等の扱いをします。なお教員は欠席に関する問い合わせには応じませんので各自自己管理すること。※詳細 は第1回の授業で示します。

科目

TV

科目

情報とコンピュータI		(1)	日英保音	1	谷口真嗣、鈴木秀治、川口玲子
授 業 科 目 名	単位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

現代社会で必須であるコンピュータスキル。演習を通し文書作成及びインターネットを活用できるスキルを身に付ける。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.コンピュータの基本的な操作を理解し、入力はブラインドタッチを目標とする
- 2.電子メールやウェブ検索のテクニックを身につけ、インターネットを活用できるようになる
- 3.日本語ワープロソフトを活用し、思い通りの書類作成が行えるようになる

### Ⅲ 授業の概要

現代社会において様々な情報はデジタルデータとしてコンピュータで扱われ利用されている。またそれらのデータは社内ネットワークを始めインターネット等で当たり前にやりとりがされている。本科目では電子メールの構造と送受信、代表的な日本語ワープロソフトを利用した文書作成、情報検索などの基本的な事項を理解し、ツールとして使いこなす知識とテクニックを身につける

#### Ⅳ 授業計画と内容

① ガイダンス

授業の進め方、コンピュータ利用について、スキル調査(タイピング)、メールについて

② 基本的なパソコン操作方法とタッチタイピング

Windows操作テクニック、ファイル、フォルダの活用技法

③ コンピュータの仕組み、周辺機器の構成

コンピュータはどのように動くのか、周辺機器の接続・インストールの仕方

- ④ 電子メールの構造と操作技法電子メールはどのように動くのか、構造と操作、送受信・返信
- ⑤ インターネットの活用 I 添付ファイル送信、同報(CC/BCC)、署名等の操作
- ⑥ インターネットの活用Ⅱ ブログとSNS、ネット検索
- ⑦ 文書作成演習1:ソフト画面の操作、文書の入力・編集
- ⑧ 文書作成演習2:文字の装飾、保存、印刷
- ⑨ 文書作成演習3:段落、段組、インデント操作、タブとリーダー
- ⑩ 文書作成演習4:クリップアート、ファイルからの画像挿入操作
- ① 文書作成演習5:テキストボックス(縦書き・横書き)、罫線表操作
- ② 文書作成演習6:ドロップキャップ、ワードアート挿入操作
- ① 文書作成演習7:SmartArt とグラフ、ヘッダーとフッター
- ④ 文書作成演習8:テンプレート利用、その他
- ① 文書作成演習9:まとめ 今までに習得した操作方法の復習

定期試験 実技試験

### 7 使用テキスト・教材等

30 時間でマスター Word2007

実教出版 noa 出版

情報倫理ハンドブック

USB ディスク(各自用意すること:初回の授業で説明します)

#### Ⅵ 参考書・参考資料

特になし

#### 垭 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験(知識・	試験(タイピン	課題•宿題	授業態度	
学習項目	文書作成)	グ)			
配点比率(%) 合計 100%	65	15	20		
タイピング演習		0	0	0	
電子メール演習			0	0	
文書作成演習	0		0	0	
電子メールとインターネット検索	0		0	0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

入力技術を上達させるためには、毎日の練習が大切です。1日 15 分程度の練習を行ってください。また、キーボードを見ないで原稿と画面だけを見ながら入力(ブラインドタッチ)ができるように、ホームポジションと正しい指の使い方を練習してください。その際、配布するタイプレッスンソフト等を利用し、指定した入力数(130 文字/分)を超えるよう練習してください。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業を欠席した場合、成績から-5 点を減点します。また著しく授業態度が悪い場合は退席を求め、欠席と同等の扱いをします。なお教員は欠席に関する問い合わせには応じませんので各自自己管理すること。※詳細は第1回の授業で示します。

П

Τ

TV

情報とコンピュータⅡ		(1)	日英 保音	1	谷口真嗣、鈴木秀治、川口玲子
授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

現代社会で必須であるコンピュータスキル。各種データを的確に加工・集計し、まとめ、表現するスキルを身に付ける。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.表計算ソフトを活用できるようになる
- 2.各種データを的確にまとめ表現するテクニックを身につける
- 3. 聴衆にどう伝えるべきか様々な角度で考察する力を身につける

#### Ⅲ 授業の概要

現代社会において様々な情報はデジタルデータとしてコンピュータで扱われ利用されている。様々なデータにおいては、それらを並び替え集計するなど加工し、グラフ化したりして利用されている本科目では代表的な表計算ソフトを利用し、様々なデータを加工・集計等するなどの基本的な事項を理解、またワープロ文書と組み合わせた利用技法やツールとして使いこなす知識とテクニックを身につける。

### Ⅳ 授業計画と内容

- ① ガイダンスと習熟度チェック ビジネス文書作成およびタイピングの習熟度チェック、電子メールの利用
- ② 表計算演習1:表計算とは?表計算ソフトの概要、四則演算と合計
- ③ 表計算演習2:関数活用(平均、最大値、最小値、行・列の挿入・削除)
- ④ 表計算演習3:関数活用(絶対参照、最大・最小、カウント、順位付け)
- ⑤ 表計算演習4:関数活用(四捨五入・切り上げ・切り捨て、桁数処理)
- ⑥ 表計算演習5:関数活用(条件判断、条件付き書式、入力規則)
- ⑦ 表計算演習6:関数活用(データの集計・検索、データベース)
- ⑧ 表計算演習7:グラフの作成と応用(グラフと複合グラフ)
- ⑨ 表計算演習8:ピボットテーブル
- ⑩ 表計算演習9:表計算総合演習
- ① 文書と表の連携:ワープロ文書と表計算ソフトの連携
- ① プレゼンテーション演習1:プレゼンテーションとは?作成の流れとまとめ方
- ③ プレゼンテーション演習2:操作と表現方法、スライドの作成
- ④ プレゼンテーション演習3:画面遷移とアニメーション、マスター
- ⑤ プレゼンテーション演習4:まとめ

定期試験 実技試験

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

30 時間アカデミック WindowsVista 対応 Excel2007 USBディスク(各自用意すること:初回の授業で説明します)

飯田慈子、小林正樹、米沢雄介 実教出版

#### Ⅵ 参考書・参考資料

特になし

### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	課題•宿題	授業態度	
学習項目				
配点比率(%) 合計 100%	60	40		
表計算演習	0	0	0	
文書作成(総合)	0	0	0	
プレゼンテーション演習		0	0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

新聞・雑誌・TV など、各種メディアでまとめられた表やグラフ等の資料に興味を持つこと。またプレゼンテーションに関しては様々な発表等を試聴するなど聴衆にアピールする手法に興味を持つこと。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業を欠席した場合、成績から-5 点を減点します。また著しく授業態度が悪い場合は退席を求め、欠席と同等の扱いをします。なお教員は欠席に関する問い合わせには応じませんので各自自己管理すること。※詳細は第1回の授業で示します。

V

運動と健康	北鸠	2	日英保音	2	鈴木雅裕
授業科目名	単位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

人体の基本的な構造や機能を知り、運動と健康の関係について科学的な捉え方を学ぶ。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.現代社会における健康の捉え方を学び、人体の基本的な構造と機能を理解することができる。
- 2. 運動の発現や持続の仕組みを理解し、日常生活における身体の動き方を考えることができる。
- 3.健康成立のための3条件である運動・栄養・休養の役割を理解し、実践することができる

### Ⅲ 授業の概要

テキストにより身体の構造・機能を知り、運動に関係する器官などの役割の理解を深め、身体に及ぼす運動の 影響を学ぶ。

### Ⅳ 授業計画と内容

項目 内 容 オリエンテーション 受講上の注意等 1. 2. 健康のとらえ方 健康の定義およびその変遷 3. 人体の名称 人体各部の名称及び区分 4. 人体の基本的構造と機能1 筋・骨格系 5. 人体の基本的構造と機能 2 脳•神経系 人体の基本的構造と機能3 呼吸器•循環器系 6. 人体の基本的構造と機能 4 消化器•内分泌系 7. 8. 人体の基本的構造と機能 5 感覚器など

9. 運動と健康 1 運動不足の影響

10. 運動と健康 2 運動が身体に及ぼす影響

11.運動と健康 3運動処方12.健康と休養 1休養とストレス13.健康と休養 2ストレス耐性

14.健康と栄養食物の消化・吸収、食生活15.ウエルネスライフスタイルと健康の関係

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

からだの仕組み事典 浅野伍朗監修 成美堂出版 2012

### Ⅵ 参考書・参考資料

特になし

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成	<b>え</b> 績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他(プリン
学習項目			レポート			トの整理)
配点比率(%) 合計 100%		50	20		10	20
人体構造の基本的知識の理	里解	0	0		0	0
人体機能の基本的知識の理	里解	0	0		0	0
運動方法の理解および実践	Ì	0	0		0	0

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

授業内容に関係するテキスト該当部分の学習を必ずすること。 授業時に配布したプリントの提出が課題の一つであるので、内容の学習だけでなく、適切に整理すること。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

普段から自分の身体の構造や働きについて、興味関心を持つように心がけてください。

Ι

スポーツA		(1)	日英 保音	1	鈴木雅裕
授業科目名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

### I 主題

身体運動の意義・役割を理解し、生涯スポーツの在り方を理解する。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.現代社会における身体運動の役割を知り、各種のトレーニング方法がわかる。
- 2.身体運動に関する自らの能力を理解し、より高めるための方法を考えることができる。
- 3.スポーツの特性を理解した上で、そのスポーツを自ら実践できる。

#### Ⅲ 授業の概要

各種スポーツの実践を通して、自分の適性に応じたスポーツの在り方を考察する。

### Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	オリエンテーション	受講上の注意等
2.	基礎トレーニング1	身体特性の確認・基礎トレーニング
3.	基礎トレーニング2	基礎トレーニング
4.	ネット型スポーツ(集団)1	種目特性の理解・基本技術の習得
5.	ネット型スポーツ(集団)2	基本技術の習得・ルールの理解
6.	ネット型スポーツ(集団)3	ゲームの運営と実践
7.	ネット型スポーツ(集団)4	ゲームの運営と実践
8.	ネット型スポーツ(個人)1	種目特性の理解・基本技術の習得
9.	ネット型スポーツ(個人)2	基本技術の習得・ルールの理解
10.	ネット型スポーツ(個人)3	ゲームの運営と実践
11.	ネット型スポーツ(個人)4	ゲームの運営と実践
12.	ゴール型スポーツ1	種目特性の理解・基本技術の習得
13.	ゴール型スポーツ2	基本技術の習得・ルールの理解
14.	ゴール型スポーツ3	ゲームの運営と実践
15.	ゴール型スポーツ4	ゲームの運営と実践

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

#### Ⅵ 参考書・参考資料

特になし

#### WI 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	小テスト・小 成果発表・作		その他	
学習項目		レポート	믑		( )	
配点比率(%) 合計 100%		20		80		
スポーツの特性・ルールの理解		0		0		
スポーツの基本的技術の習得		0		0		
トレーニング方法の理解		0		0		

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

日常生活に身体運動の実践を取り入れ、身体運動の意義について理解を深めること。

### Ⅳ その他 (履修上の注意、前提条件等)

身体運動に適切な服装や用具を着用し、衛生および安全にも配慮すること。

IV

授業科目名	単位必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員
スポーツA		(1)	保	1	戸藤利明

#### 主題

快適な社会生活を営むために、生涯スポーツの意義・役割の重要性を認識し、健康的なライフスタイルを実現 する。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.運動を通して、日常の心身の状態を把握し、コントロールすることを学ぶ。
- 2.自己実現・自己表現をすることにより、コミュニケーション力を高める。
- 3.ルール・マナーを通して、社会性を学ぶ。

### Ⅲ 授業の概要

運動の能力的・技術的なことは問いません。笑顔で楽しく、気持ちよく身体を動かし、お互いが助け合い、競い 合い、教え合う学生主体の授業とする。

### Ⅳ 授業計画と内容

	KNI III C 1 7 II	
	項目	内 容
1.	オリエンテーション1	授業の目的・受講上の注意等
2.	オリエンテーション2	チーム編成・授業前に行うトレーニングとストレッチ
3.	バレーボール1	チーム対抗戦の試合方法・ルールの説明・練習
4.	バレーボール2	チーム対抗戦
5.	バレーボール3	チーム対抗戦
6.	バレーボール4	チーム対抗戦
7.	バスケットボール1	チーム対抗戦の試合方法・ルールの説明・練習
8.	バスケットボール2	チーム対抗戦
9.	バスケットボール3	チーム対抗戦
10.	バスケットボール4	チーム対抗戦
11.	バドミントン1	チーム対抗戦の試合方法・ルールの説明・練習
12.	バドミントン2	チーム対抗戦
13.	バドミントン3	チーム対抗戦
14.	バドミントン4	チーム対抗戦
15.	まとめ	
\ e / +   +   +	- 45 F A RE- 10 W 66 1 3 L A - 5	t)

<sup>※</sup>実施種目や時間数等は試合の流れや時間により変更する場合がある。

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

特に使用しない。

### VI 参考書·参考資料

特になし

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他(自己
学習項目		レポート	品		実現等)
配点比率(%) 合計 100%				80	20
自己コンディションのコントロール				0	0
相互理解・コミュニケーション能力				0	0
ルール・マナーの理解				0	0

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

自己の健康を意識し、日常の生活の中に身体運動を積極的に取り入れる。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

オリエンテーション時より、必ず運動に適したウェアー(上・下)と運動靴(体育館シューズ)を持参すること。

<sup>※</sup>実技を行う前に簡単なトレーニング・ストレッチを行う。

Ι

IV

 
 授業科目名
 単位数 込修 選択 学科 年次 担当教員

 スポーツA
 (1) 保 1
 田村元延

#### I 主題

スポーツ・運動を通して、からだを動かす楽しさを味わうことにより「運動に親しむ資質・能力」を養い、人が日常 生活において心身ともに健康に生活していく素地を育む。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.授業で取り扱うスポーツのルールなど「基礎知識」を習得できる。
- 2.ゲームを楽しむための「基礎技能」を習得できる。
- 3.スポーツを通して仲間と協力して取り組む態度を育てることができる。

### Ⅲ 授業の概要

技術的・能力的なことは問いません。笑顔で楽しく、気持ちよく身体を動かし、お互いが助け合い、競い合い、教え合う学生主体の授業とする。

#### Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内	容
1.	オリエンテーシ	ョン	授業の目的、受講上の注意等
2.	バドミントン		基礎技能の習得・ルール説明・ダブルスゲーム
3.	バドミントン		ダブルスゲーム
4.	バドミントン		ダブルスゲーム
5.	インディアカ		基礎技能の習得・ルール説明・チーム対抗戦
6.	インディアカ		チーム対抗戦
7.	インディアカ		チーム対抗戦
8.	バレーボール		基礎技能の習得・ルール説明・チーム対抗戦
9.	バレーボール		チーム対抗戦
10.	バレーボール		チーム対抗戦
11.	フットサル		基礎技能の習得・ルール説明・チーム対抗戦
12.	フットサル		チーム対抗戦
13.	フットサル		チーム対抗戦
14.	ドッジビー		基礎技能の習得・ルール説明・チーム対抗戦
15.	ドッジビー		チーム対抗戦

- ※ 受講する学生の状況により、実施種目やルール、時間数などを変更する場合がある。
- ※ 実技を開始する前に簡単なトレーニングやストレッチ等を行う。

#### V 使用テキスト・教材等

特に使用しない。

#### VI 参考書·参考資料

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他(自己
学習項目		レポート	品		実現)
配点比率(%) 合計 100%				80	20
基礎知識の習得				0	0
基礎技能の習得				0	0
仲間との協同性				0	0

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

## 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

必ず運動に適したウェアー(上・下)と運動靴(体育館シューズ)を持参する。 忘れた場合は、参加を認めません。

V

授業科目名		立数	学科	学科 年次	担当教員	
及米和日祖	必修   選択   チャー エジ	1 1/				
スポーツB		(1)	日英保	2	戸藤利明	

#### I 主題

快適な社会生活を営むために、生涯スポーツの意義・役割の重要性を認識し、健康的なライフスタイルを実現する。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.運動を通して、日常の心身の状態を把握し、コントロールすることを学ぶ。
- 2.自己実現・自己表現をすることにより、コミュニケーション力を高めることが出来る。
- 3.ルール・マナーを通して、社会性を学ぶ。

#### Ⅲ 授業の概要

運動の技術的・能力的なことは問いません。 笑顔で楽しく、気持ちよく身体を動かし、お互いが助け合い、競い合い、教え合う学生主体の授業とする。

### Ⅳ 授業計画と内容

	項 目	内容
1	オリエンテーション1	授業の目的、受講上の注意等
2	オリエンテーション2	チーム編成・授業前に行うトレーニングとストレッチ
3	バドミントン1	チーム対抗戦の試合方法・ルールの説明・練習
4	バドミントン2	チーム対抗戦
5	バドミントン3	チーム対抗戦
6	バドミントン4	チーム対抗戦
7	バレーボール1	チーム対抗戦の試合方法・ルールの説明・練習
8	バレーボール2	チーム対抗戦
9	バレーボール3	チーム対抗戦
10	バレーボール4	チーム対抗戦
11	.ニュースポーツ1	チーム対抗戦の試合方法・ルールの説明・練習
12	.ニュースポーツ2	チーム対抗戦
13	ニュースポーツ3	チーム対抗戦
14	.ニュースポーツ4	チーム対抗戦
15	まとめ	
		CHARLES A CALL AND A C

<sup>※</sup>履修者の人数により、実施種目、時間数、試合の流れ等は変更する場合がある。 ※実技を行う前に簡単なトレーニング・ストレッチ等を行う。

#### ▼ 使用テキスト・教材等

特に使用しない。

#### VI 参考書·参考資料

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	出席状況•授	その他(自己
学習項目		レポート	品	業態度	実現)
配点比率(%) 合計 100%				80	20
自己コンディションのコントロール				0	0
相理解・コミュニケーション能力				0	0
ルール・マナーの理解				0	0

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

自己の健康を意識し、日常生活の中に身体運動を積極的にを取り入れる。

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

オリエンテーション時より、必ず運動に適したウェアー(上・下)と運動靴(体育館シューズ)を持参する。

Τ

授業科目名	単 位 必修	選択	学科 	年次	担当教員
スポーツB		(1)	保音	2	田村元延

### I 主題

快適な社会生活を営むために、生涯スポーツの意義・役割の重要性を認識し、健康的なライフスタイルを実現 する。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.運動を通して、日常の心身の状態を把握し、コントロールすることを学ぶ。
- 2.自己実現・自己表現をすることにより、コミュニケーション力を高めることが出来る。
- 3.ルール・マナーを通して、社会性を学ぶ。

#### Ⅲ 授業の概要

運動の技術的・能力的なことは問いません。 笑顔で楽しく、 気持ちよく身体を動かし、 お互いが助け合い、 競い合い、 教え合う学生主体の授業とする。

### Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内 容
1.	オリエンテーション1	授業の目的、受講上の注意等
2.	オリエンテーション2	チーム編成・試合方法の説明等
3.	バレーボール1	ルールの説明・チーム対抗戦
4.	バレーボール2	チーム対抗戦
5.	バレーボール3	チーム対抗戦
6.	バレーボール4	チーム対抗戦
7.	バドミントン1	ルールの説明・チーム対抗戦
8.	バドミントン2	チーム対抗戦
9.	バドミントン3	チーム対抗戦
10.	バドミントン4	チーム対抗戦
11.	フットサル1	ルールの説明・チーム対抗戦
12.	フットサル2	チーム対抗戦
13.	フットサル3	チーム対抗戦
14.	フットサル4	チーム対抗戦
15.	ドッヂボール	ルールの説明・対抗戦
	• * * • • •	間数、試合の流れ等は変更する場合がある

※実技を行う前に簡単なトレーニング・ストレッチ等を行う。

#### V 使用テキスト・教材等

特に使用しない。

#### VI 参考書·参考資料

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他(自己
学習項目		レポート	品		実現)
配点比率(%) 合計 100%				80	20
自己コンディションのコントロール				0	0
相理解・コミュニケーション能力				0	0
ルール・マナーの理解				0	0

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

自己の健康を意識し、日常生活の中に身体運動を積極的にを取り入れる。

### Ⅸ その他 (履修上の注意、前提条件等)

オリエンテーション時より、必ず運動に適したウェアー(上・下)と運動靴(体育館シューズ)を持参する。

IV

科目

英語圏の文化と言葉A		(2)	日音	1	永倉由里
授 業 科 目 名	必修	選択	学科	年次	担 当 教 員
	道 在	立数			

#### I 主題

この授業では国際語として重要な「英語」とその背景にある「文化」について学ぶ。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.目常会話に必要な基本的な英語表現を理解し使えるようになる。
- 2. 「英語」の背景にある「文化」について理解し考察できるようになる。
- 3.歌詞に込められたメッセージを理解し歌えるようになる。

### Ⅲ 授業の概要

異文化間でコミュニケーションのズレが生じる場面を紹介し、その原因を考えていく。また、歌詞に込められた「価値観」「感情」を読み取り、鑑賞する。

### Ⅳ 授業計画と内容

項目

内容

- 1. オリエンテーション
- 2~3. 外国人が感じる「日本人」の不思議
- 4~5. 英語で遊ぼう!語源の妙 **—Bowwow** カルタ
- 6~8. アメリカ人の知らない英語 一和製英語カルター
- 9~11. 知っておきたい英語の知識
- 12~14. 英語の「構え」でコミュニケーション
- 15. 前期のまとめ
- 16~19. 生活文化や価値観の違いから生じるコミュニケーション・ギャップ
- 20~23. 知っておきたい一般常識 ―ことわざカルタ―
- 24~29. 異文化間に生じる諸問題を考えよう!
- 30. 後期のまとめ 定期試験

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

【全クラス】『異文化理解おもしろクイズ』 永倉由里 開拓社

#### VI 参考書·参考資料

必要に応じて、プリント教材・資料を配布する。

### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

- 7001861 IM 0773 7570 C C T					
成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100	30	30		40	
英語表現の理解と定着	0	0		0	
英語圏の文化の理解	0	0		0	
歌詞の理解	0	0		0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

小テストに備えること。

### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業中の英語活動に積極的に参加すること。

Ι

授 業 科 目 名	単位 必修	立数 選択	学科	年次	担 当 教 員
英語圏の文化と言葉A		(2)	英	1	市川真矢

#### I 主題

イギリスとアメリカの文化、社会、生活、習慣などについて比較したエッセイの読解を通して、英米の事情について学び、合わせて四技能の向上を目指す。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.250 語程度の英文エッセイを正確に読解できる。
- 2.エッセイの内容に関連するリスニング・ライティングの力を向上させられる。
- 3.イギリスとアメリカの事情について知ることができる。

#### Ⅲ 授業の概要

英文エッセイを読む。文章中の語彙と、内容の理解の確認をする。テキスト付属の CD を聴き、会話文を完成させる。また会話の内容について英語の質問に答える。空所補充の短文英作文などを行う。

#### IV 授業計画と内容

項目	内 容
1-2. Lesson 1 & 2	Terror in the City / Walls
3-4. Lesson 3 & 4	British History / The Elephant and the Mouse
5-6. Lesson 5 & 6	American History / Names
7-8. Review 1 & Lesson 7	Rain in the UK
9-10. Lesson 8 & 9	Sport / Universities in the UK
11-12. Lesson 10 & 11	Glamour and Glitz / Baths
13-14. Lesson 12 & 13	9/11 Part 1:The Shock /9/11 Part 2: The aftermath
15-16. Review 2 & Lesson 14	Old Houses
17-18. Lesson 15 & 16	Why? / Disappearing Icons
19-20. Lesson 17 & 18	UK Pride / Trends and Swings
21-22. Review 3 & Lesson 19	Cars

23-24. Lesson 20 & 21 Looking Big or Looking Back / Animals Are Forever

25-26. Lesson 22 & 23 Privacy / Youth

27-28. Lesson 24 Yo

29-30. Review 4 年間の学習のまとめ

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

The UK and the USA Compare and Contrast Terry O'Brien 南雲堂 2010

#### Ⅵ 参考書·参考資料

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100	40	40		20	
英語読解力の向上	0	0		0	
英語聴解力・文章構成力の向上	0	0		0	
英語による異文化の理解	0	0		0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

担当教員より予習・復習・課題等について指示がある。

科目

V

IV

授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員
英語圏の文化と言葉A		(2)	英	1	新妻明子

#### I 主題

この授業では、英語による基本的なコミュニケーション活動を通してスピーキング力やコミュニケーションスキルの向上を図り、英語圏の国への海外旅行プランを立て、その国の文化・自然・地理を学びながら英語力を高めることを目指す。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.英語を使用して海外旅行に必要な情報収集を行うことができる。
- 2.目的国の文化・地理・自然に関して具体的に3つ以上説明することができる。
- 3.目的国への海外旅行日程表を作成し、旅行のポイントをプレゼンテーションすることができる。

#### Ⅲ 授業の概要

ペアワークやグループワークを取り入れ、英語圏の国への海外旅行プランを立て、その国の文化・地理・自然を学びながら英語力の向上を図る。具体的に目的国を選び、最終的には2~3週間の旅行プランを立て、日程表を作成し、旅行のポイントや見どころなどについてプレゼンテーションを行う。

### Ⅳ 授業計画と内容

00-4-1-4-0	— –	
	項目	内 容
$1 \sim 2$ .	Chapter 1	Getting Ready
$3 \sim 4$ .	Chapter 2	Choosing a Country
$5 \sim 6$ .	Chapter 3	About Your Country
$7 \sim 8$ .	Chapter 4	Presentation 1
$9 \sim 10$ .	Chapter 5	The Arts
11~12.	Chapter 6	Wildlife
$13 \sim 14$ .	Chapter 7	Information for Visitors
15	Preparation	Preparation for Presentation 2
$16 \sim 17$ .	Chapter 8	Presentation 2
18~19.	Chapter 9	Getting There
20~21.	Chapter 10	Exploring the Country's Regions
22~23.	Chapter 11	Traveling Around the Country
$24 \sim 25$ .	Chapter 12	Presentation 3
$26 \sim 27$ .	Chapter 13	Planning Your Final Itinerary
28~29.	Preparations	Preparation for Presentation 4
30	Chapter 14	Presentation 4
	定期試験	

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

Travel Abroad Project Richard McMahon NAN' UN-DO 2011

#### VI 参考書·参考資料

必要に応じて授業で適宜紹介する。

### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100%	10	20	60	10	
プレゼンテーションスキル	0	0	0	0	
目的国の文化・地理・自然に関する知識	0	0	0	0	
Travel Journal Entry	0	0	0	0	
Final Itinerary 作成	0	0	0		

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

プレゼンテーションの練習や Travel Journal の記入

Ι

英語圏の文化と言葉A		(2)	保	1	石谷桂子、鈴木克義、小田寛人、 永倉由里、新妻明子
授業科目名	単位必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員

#### I 主題

この授業では国際語として重要な「英語」とその背景にある「文化」について学ぶ。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.日常会話に必要な基本的な英語表現を理解し使えるようになる。
- 2. 「英語」の背景にある「文化」について理解し考察できるようになる。
- 3.子ども英語活動の意義と楽しさを理解し実践できるようにする。

### Ⅲ 授業の概要

異文化間でコミュニケーションのズレが生じる場面を紹介し、その原因を考えていく。また、幼稚園・保育園で 実際に使える日常会話、歌やゲームの練習も行う。

### Ⅳ 授業計画と内容

項目内容

1 オリエンテーション

- 2~3 外国人が感じる「日本人」の不思議
- 4~5 英語で遊ぼう! 語源の妙 ─Bowwow カルタ─ 6~8 アメリカ人の知らない英語 ─和製英語カルタ─
- 9~11 知っておきたい英語の知識
- 12~14 英語の「構え」でコミュニケーション
- 15 前期のまとめ

前期定期試験(共通)

- 16~19 生活文化や価値観の違いから生じるコミュニケーション・ギャップ
- 20~23 知っておきたい一般常識 一ことわざカルター
- 24~29 異文化間に生じる諸問題を考えよう!
- 30 後期のまとめ

後期定期試験(共通)

#### ▼ 使用テキスト・教材等

【全クラス】『異文化理解おもしろクイズ』 永倉由里 開拓社

### Ⅵ 参考書・参考資料

各担当者より必要に応じて、プリント教材・資料を配布する。

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100%	30	30		40	
英語表現の理解と定着	0	0		0	
英語圏の文化の理解	0	0		0	
子ども英語活動		0		0	

### Ⅷ 授業時間外の学習(予習・復習等)

各担当者の指示に従うこと。

#### IX その他(履修上の注意、前提条件等)

各担当者の指示に従うこと。

英語圏の文化と言葉B		(2)	日音	2	鈴木克義
授 業 科 目 名	単位 必修	立 数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

ビートルズとミュージカル映画を題材に、その歌と作品の意味や文化・歴史的な背景などを取り上げ、内容を理解した上で楽しめるようにする。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.英語と日本語のリズムや発声の違いを、英語の歌を通じて体得する
- 2.ビートルズや自分の好きな映画について調べ、発表ができる力をつける
- 3.ビデオ映像や映画を通じて、英語圏の学生生活や人種問題などの文化を学ぶ

#### Ⅲ 授業の概要

テキストに載っている曲だけでなく、グループで自分の選んだ英語の歌や映画を紹介し、発表してもらう。ビートルズやミュージカルに関するビデオや映画なども視聴する。

#### Ⅳ 授業計画と内容

122			
1.	オリエンテーション(ビデオ)	2.	She Loves You, Love
3.	Love Me Do / Please Please Me	4.	I Want to Hold Your Hand
5.	Can't Buy Me Love, Help!	6.	Yesterday, Penny Lane
7.	Sergeant Pepper's…	8.	Hey Jude
9.	Let It Be, Here Comes the Sun	10-11.	Imagine ほか
12-13.	サウンド・オブ・ミュージック	14-15.	マイ・フェアレディ
16-17.	ウエストサイド物語	18-19.	雨に唄えば
20-21.	天使のラブソング 2	22-23.	マンマ・ミーア!
24-25.	ハイスクール・ミュージカル	26-27.	アニー
28-29.	ヘアスプレー	30.	まとめ

### Ⅴ 使用テキスト・教材等

The Beatles ビートルズの世界 C.Mosdell 著、西光義弘編 金星堂

### Ⅵ 参考書・参考資料

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

	_					
成績評	価方法	試験	小テスト・小 成果発表・作		授業態度	その他
学習項目			レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100			20	40	40	
作品中の英語や文化の理解			0		0	
グループ課題のプレゼンテーショ	ン			0	0	

### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

知らない単語・表現等があったら必ず予習してきてほしい。 辞書や電子辞書等を持参のこと。

- ・メール課題の提出や質問などは、次のアドレスに送るように。
- ・授業に遅れたり休んだりする場合も、メールで理由を知らせること。 suzukimusic2@gmail.com

П

Τ

TV

英語圏の文化と言葉B		(2)	日英 保音	2	厨子光政
授 業 科 目 名	単 位 必修	立数 選択	学科	年次	担 当 教 員

#### I 主題

「片言のコミュニケーション」を合い言葉に、日常的なコミュニケーションの基本的スキルを習得し、英語文化圏の中で生活したり旅行したりするための英語運用能力を身につけると同時に、文化について理解を深める。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.基礎的な英語表現、文法、語彙を習得する。
- 2.ペアワークや質疑応答を英語で行うことで、コミュニケーションの道具としての英語に慣れる。
- 3.文化について理解を深め、他文化を認めた上で、自文化を説明することができる。

### Ⅲ 授業の概要

コミュニケーションの練習と、英文読解による知識の習得を平行して行う。コミュニケーションの練習には、ペア ワーク、グループワークを取り入れ、学生間の積極的な発話を促す。一方、読解部分では、逐語訳形式の英 語学習から脱皮して、筆者の論旨を理解することに焦点をあてたパラグラフリーディングを目差した練習をす る。

### Ⅳ 授業計画と内容

- 1. オリエンテーション及び英語での自己紹介
- 2-3. 文化とは何か
- 4-5. 文化的ルール--受容と拒絶
- 6-7. 固定観念
- 8-9. メディアの文化的影響
- 10-11. 非言語コミュニケーションと文化
- 12-13. 文化による時間の違い
- 14-15. 接触と空間
- 16-17. 言語コミュニケーションと文化
- 18-19. 個人と集団の関係
- 20-21. サブカルチャー
- 22-13. 生得的地位と獲得的地位
- 24-15. 家族とは何か
- 26-27. 性別と文化
- 28-19. 繋がった世界
- 30. まとめと討論

#### V 使用テキスト・教材等

理論と実践で学ぶ異文化間コミュニケーション 梶浦麻子、他 南雲堂 2013

#### Ⅵ 参考書・参考資料

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100	40	20	10	30	
コミュニケーション活動への積極的参加			0	0	
テキストの理解	0	0			

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

知らない単語・表現等があったら必ず予習してきてほしい。 辞書や電子辞書等を持参のこと。

- ・授業に関係のない私語は禁止。
- ・授業に必要のないもの(ケータイ、手鏡など)は、鞄にしまっておくこと。
- これらの注意事項に従わない場合は、退席させる。

IV

科

授業科目名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員
ドイツの文化と言葉 I		(2)	日英 音	1	小柴浩稔

### I 主題

この授業ではドイツ語を中心にドイツについて幅広く学ぶ。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.1. ドイツ語の基礎から学び、基本的なルールが理解できるようになる。
- 2.2. ドイツ語の重要単語や基本的フレーズを習得し、運用できるようになる。
- 3.3. ドイツの文化や社会について学び、異文化理解について考察できる。

### Ⅲ 授業の概要

授業は講義形式を主として進めるが、パートナー練習、聞き取り練習、課題発表なども積極的に取り入れ、学 生が主体的に学べるよう配慮する。また必要に応じて、CD、ビデオなどを視聴して、ドイツの文化や社会につ いても学べるよう配慮する。

#### Ⅳ 授業計画と内容

ガイダンス 英語とドイツ語の相違など 1.

2~3. アルファベット つづりと発音

 $4 \sim 6$ . あいさつ 様々な日常のあいさつ  $7 \sim 9$ . 動詞の現在人称変化 人称代名詞と動詞の形 10~11. 定動詞の位置 語順に関するルール(1) 12~14. 名詞の性と冠詞 定冠詞と不定冠詞の格変化 15. 前期のまとめ 中間試験の傾向と対策 前期の復習 中間試験の返却と解説 16.

17~18. 数字 数詞0~20

19~20. 不規則動詞の現在人称変化 幹母音が変音する動詞

21~22. 前置詞 前置詞の格支配

23~25. 助動詞 語順に関するルール(2)

26~27. 動詞の過去人称変化 動詞の三基本形

28~29. 現在完了 語順に関するルール③ 期末試験の傾向と対策

30. 後期のまとめ

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

ゼロから話せるドイツ語「改訂版] 大友展也 三修社

### VI 参考書·参考資料

初級ドイツ語のすべて 白水社 榎本重男

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	믑		( )
配点比率(%) 合計 100	50	30		20	
ドイツ語の基本的ルールの理解	0	0		0	
簡単なドイツ語の習得	0	0		0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

予習範囲は毎回指示するので、事前に目を通しておくこと。

Ι

TV

授 業 科 目 名	単 位 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員
ドイツの文化と言葉Ⅱ		(2)	日英 音	2	小柴浩稔

#### I 主題

この授業ではドイツ語を中心にドイツについて幅広く学ぶ。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.1年間学んだドイツ語の知識を応用できるようになる。
- 2.ドイツ語の重要単語や基本的フレーズを更に習得し、運用できるようになる。
- 3.ドイツの文化や社会について引き続き学び、異文化理解について考察できる。

#### Ⅲ 授業の概要

授業は講義形式を主として進めるが、パートナー練習、聞き取り練習、課題発表なども積極的に取り入れ、学生が主体的に学べるよう配慮する。また必要に応じて、CD、ビデオなどを視聴して、ドイツの文化や社会についても学べるよう配慮する。

#### Ⅳ 授業計画と内容

内 項目 容 1. 1年次の総復習 1年次の期末試験の返却と解説  $2 \sim 3$ . 複合動詞 分離動詞と非分離動詞 語順に関するルール④  $4 \sim 6$ . 複合動詞と助動詞  $7\sim9$ 複合動詞と現在完了 語順に関するルール⑤ 10~11. 数字 数詞0~100 12~14. 接続詞 三種類の接続詞の用法

 12~14. 接続詞
 三種類の接続詞の用法

 15. 前期のまとめ
 中間試験の傾向と対策

 16. 前期の復習
 中間試験の返却と解説

 17~18. 数字の応用
 日時に関する表現

 10~20 またが動詞
 動意表現

19~20.非人称動詞熟語表現21~22.命令文勧誘表現23~25.受動文語順に関

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

1年次の教科書を続けて使用する。

#### VI 参考書·参考資料

初級ドイツ語のすべて 榎本重男

白水社

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100	50	30		20	
ドイツ語の基本的ルールの理解	0	0		0	
簡単なドイツ語の習得	0	0		0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

予習範囲は毎回指示するので、事前に目を通しておくこと。

П

TV

V

イタリアの文化と言葉 I		(2)	日英音	1	ヴィットリオロッキ		
授 業 科 目 名	必修	選択	学科	年次	担当教員		
	単 位 数						

#### T 主題

初めて触れるイタリア語に親しみ日常に密着した会話を実践していくことで、コミュニケーション能力を身に付け、外国語会 話への自信へと繋げる。さらにその文化を知る事に寄って各学科の専門知識との関連性を学ぶ。

#### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.イタリア語を理解し、基本的な会話が出来るようになる
- 2.イタリアの文化について学び、そこから言語や音楽などへの関連性を考察できる
- 3.各々の学科での知識を利用して、応用できるようになる

### Ⅲ 授業の概要

基本的な会話表現や街なかで見かける掲示のことばをとおして、発音と文法の基礎知識を学び、イタリア語と はどんな性格のことばなのか、そしてイタリア人が生活の中でそれをどのように使っているかを理解した上で、 写真やCDなどを参考にヨーロッパ文化を知り、さらには各々の学科で学び得た事との関連性をディスカッショ ンし理解を深める。

### Ⅳ 授業計画と内容

項目と内容

- 1.2. 自己紹介・挨拶・発音・名詞カード・形容詞・No.1~10
- 3.4. 人称代名詞・essere(be 動詞)・avere(持つ)・chiamarsi(呼ぶ)・年齢
- 流行歌の CD を歌詞カードを見ながら聞き、発音を練習・ are 動詞変化活用 5.6.
- 7.8. 音楽用語・Bravo/Buono/Bello/Bene の違い・動詞・~を好む・時間
- ~が好き・量・前置詞 in・イタリアの世界遺産を写真で知る 9.10.
- 行く&来る・前置詞句の用法・イタリア人の生活を紹介 11 12
- 従属動詞 sapere (知る) volere (欲しい) ヒアリング 13.14.
- 15. まとめ(I)
- 旅行会話・~回・~してくれて、ありがとう/~しなくて、すみません 16.17.
- 18. 疑問詞(なぜ、いつ、どこ等)・Bar やレストランでの注文の仕方
- 天気・日にち&曜日・色・イタリア語クロスワード 19.20.
- 文章の組み立て・~後・~の前に・イタリア人の生活用語 21.22.
- ~の隣に·~の前に·遠くへ近くに·No.11~100 23.24.
- CD を聴いてイタリアの流行歌などを知る・ヒアリング 25.26.
- 27.28. イタリアの伝統行事と料理
- 29.30. まとめ(Ⅱ)

#### 使用テキスト・教材等

イタリア語ひとさら 遠藤礼子 白水社

辞書

### VI 参考書・参考資料

Espresso 1 Ziglio Luciana/Rizzo Giovanna

### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目		レポート	品		( )
配点比率(%) 合計 100%					
イタリア語やその文化についての理解	0	0		0	
発音と意味	0	0			
質問や討論への参加				0	

#### 授業時間外の学習(予習・復習等)

毎授業後必ず復習をし、次回の授業時には習った単語の意味を覚えておくこと

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

私語を慎み、積極的な態度で授業に臨むこと

Τ

 
 授業科目名
 単位数 必修選択
 学科 年次
 担当教員

 イタリアの文化と言葉II
 [2] 音
 2
 ヴィットリオロッキ

#### I 主題

イタリア語に親しみ日常に密着した会話を実践していくことで、

コミュニケーション能力を身に付け、外国語会話への自信へと繋げる。またイタリア文化を知ることに寄り、音楽とどう関連しているのかを考察する。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.イタリア語を理解し、会話が出来るようになる
- 2.イタリアの文化について学び、そこから言語や音楽などへの関連性を考察できる
- 3.音楽科で学ぶ専門知識を利用して、応用できるようになる

### Ⅲ 授業の概要

基本的な会話表現や街なかで見かける掲示のことばをとおして、発音と文法の基礎知識を学び、イタリア語とはどんな性格のことばなのか、そしてイタリア人が生活の中でそれをどのように使っているかを理解した上で、写真やCDなどを参考にヨーロッパ文化を知り、さらには各々の学科で学び得た事との関連性をディスカッションし理解を深める。

### Ⅳ 授業計画と内容

- 1.2. 自己紹介・挨拶・発音・名詞カード・形容詞・No.1~100
- 3.4. 人称代名詞・〈be 動詞〉〈持つ〉〈呼ぶ〉等の復習・年齢
- 5.6. 流行歌の CD を歌詞カードを見ながら聞き、発音を練習・ are 動詞変化活用
- 7.8. 音楽用語・オペラでよく使われる単語・オペラのセリフを読む
- 9.10. ~が好き・量・前置詞 in・イタリアの街を写真で知る
- 11.12. are,ere,ire・前置詞句の用法・ヒアリング・有名な作曲家が生まれた街を知る
- 13.14. 従属動詞 sapere(知る)volere(欲しい) dovere(~しなければならない)
  - potere(出来る) sapere と conoscere の違い・文章の組み立て
- 15. まとめ(I)
- 16.17. 旅行会話・過去形・~回・イタリア人の生活習慣
- 18. 疑問詞(なぜ、いつ、どこ等)・Bar やレストランでの注文の仕方
- 19.20. 天気・目にち&曜日・色・No.100~1000 以上
- 21.22. 未来形・月日・~後・~の前に・イタリア人の生活用語
- 23.24. ~の隣に・~の前に・遠くへ近くに・番号(順番)
- 25.26. CD を聴いてイタリアの流行歌などを知り言葉を覚える・ヒアリング
- 27.28. イタリアの伝統行事と料理
- 29.30. まとめ(Ⅱ)

#### ▼ 使用テキスト・教材等

イタリア語ひとさら 遠藤礼子 白水社

辞書

#### VI 参考書·参考資料

Espresso 1 Ziglio Luciana/Rizzo Giovanna

#### Ⅲ 成績評価の方法及び基準

	成績評価方法	試験	小テスト・小	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目			レポート	品		( )
配点比率(%) 合計	100%	40	30		30	
イタリア語会話 及	び イタリア文化	0	0		0	
発音と意味		0	0			
質問や討論への参	:加				0	

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

毎授業後必ず復習をし、次回の授業時には単語の意味なども覚えておくようにすること

#### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

私語を慎み、積極的な態度で授業に臨むこと

П

授業科目名	単 fi 必修	立 数 選択	学科	年次	担当教員
中国の文化と言葉		(2)	日	1	兪虹

### I 主題

入門者のための楽しい中国語。

### Ⅱ 授業の到達目標

- 1.中国式のローマ字を見て、正確な発音ができるようになること。
- 2.中国語の基礎的な表現法をマスターし、簡単な日常会話ができるようになること。
- 3.中国語検定準4級レベルを目指す。

### Ⅲ 授業の概要

本コースは、中国語入門コースである。中国語は、漢字で表記するので、日本人には一見学習しやすいと思われがちである。しかし、中国語の発音は、日本語よりはるかに豊富であるため、日本人にとっては、正確な発音ができるようになるまでにはかなりの努力を要する。

#### Ⅳ 授業計画と内容

項	<b>〔</b> 目	内 容
$1\sim3$	発音 1~発音 3	中国語とは?/母音の学習
		子音の学習/声調の学習
$4 \sim 6$	発音 4~発音 6	発音の学習/会話練習
$7\sim9$	発音 7~発音 9	発音まとめ①
10~12	前期のまとめ	発音まとめ②
$13 \sim 14$	中国の文化/中検	ビデオの鑑賞/中検準4級対策
15	前期の復習	テスト勉強
$16 \sim 18$	第1課~第3課	文型学習/聴く練習/会話練習
19~21	第4課~第6課	文型学習/聴く練習/会話練習
$22 \sim 24$	第7課~第9課	文型学習/聴く練習/会話練習
$25 \sim 27$	第 10 課~第 12 課	文型学習/聴く練習/会話練習
$28 \sim 29$	中国の文化/後期のまとめ	後期内容の復習 /ビデオの鑑賞
30	後期の復習	テスト勉強

#### Ⅴ 使用テキスト・教材等

ティン ダ ドン マ? 劉頴・陳浩・梁月軍 白帝社

#### Ⅵ 参考書・参考資料

参考文献等は授業の際に紹介します。

#### Ⅵ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	毎回の課題	成果発表•作	授業態度	その他
学習項目			品		( )
配点比率(%) 合計 100	50	50			
毎回の課題		0			
発音と基本文型(テキスト内容)	0				

#### Ⅲ 授業時間外の学習(予習・復習等)

毎回の授業内容をしつかり復習する必要があります。復習の内容は音読、日常会話の暗記とヒヤリングが中心になっています。

### 区 その他 (履修上の注意、前提条件等)

授業中の私語、懈怠は、成績の漸減を生じるので注意することが必要です。真剣に勉強したい学生が大歓迎です。